

## 下部消化管内視鏡検査説明書・同意書

## 【検査の目的】

大腸の粘膜を内視鏡で直接観察することにより、大腸にできる病気（潰瘍・ポリープ・癌・炎症など）を発見し、適切な治療法を選択するための検査です。

## 【検査内容】

- ・ 肛門より内視鏡を挿入し、消化管に空気を入れて膨らませながら観察します。検査は15~30分程度で終了しますが、観察や処置に少し時間がかかる可能性もあります。
- ・ 検査の前処置として、検査食や下剤を内服して頂きます。
- ・ 検査や処置を行いやすくするために、医師の判断で胃腸の動きを弱める薬剤を使用することがあります。

## 【鎮静剤の使用】

検査に対する緊張や痛みを和らげるために鎮静剤を使用します。個人差がありますが、しばらく眠気やふらつき感が続くことがありますので、可能な限り公共交通機関か送迎をご利用下さい。検査後はベッドで休んで頂き、麻酔よりしっかり覚醒し気分不良がなければ帰宅して頂きます。

## 【検査中の処置】

検査中、必要に応じて処置を行うことがあります。

- ・ 生検：組織検査の為に粘膜の一部を採取します。
- ・ 色素散布：粘膜の性状の変化をより詳しく観察するために人体に安全な色素を噴霧します。
- ・ 止血処置：出血などがみられた場合、止血の治療を行います。
- ・ ポリープ切除：ポリープが見つかった場合、ポリープの形状や大きさにより異なりますが、その場で切除が可能です。ポリープを切除した場合、入院になることがあります。

## 【検査に伴う偶発症・合併症】

1. 穿孔（大腸に孔があく事）、出血
2. 内視鏡操作や前処置に伴う血圧低下、ショック
3. スコープによる粘膜損傷
4. 検査時に使用する薬剤の副作用など

偶発症の発生率は、観察のみの場合0.662%、生検を行った場合0.504%、ポリープ切除した場合2.281%と報告されています。偶発症が発生した場合は、止血処置、輸血、外科的手術など緊急処置が必要になる場合があります。

※ 脳梗塞や心臓病治療の為に血液をさらさらにするお薬を服用している方、歯科治療、局所麻酔などでアレルギー症状が出た事のある方は確認させて頂きますので検査前にお申し出ください。

私は、下部消化管内視鏡検査の目的について医師より説明を受け、内容・検査中の処置、鎮静剤の使用、検査に伴う偶発症・合併症について上記記載事項を読み、理解しましたので下部消化管内視鏡検査を受ける事に同意します。

年 月 日

説明担当医

立会看護師

本人署名

㊞

代諾者

㊞（続柄）

（自筆の場合、押印は省略可）

（自筆の場合、押印は省略可）